

ワミレス、世界へ発信

化粧品業界最大の学術大会で発表

ワミレスコスメティックス株式会社(横浜市)は、同社研究所(ホリスティックビューティー研究所)の研究成果を学術大会『IFSCCコンGRESS2020』(コンGRESSは大会という意味)で発表しました。

この学術大会は、化粧品業界では世界最大規模で最も権威のあるIFSCC(国際化粧品技術者会連盟)が主催し、発表の採択には高い研究の質と先端性が求められます。

新型コロナウイルスの影響により、同学術大会では初となる、オンラインで発表とディスカッションを行うバーチャルコンGRESSとなりました。

その中で北里大学との共同研究で放線菌から得られた皮膚バリアや保湿に有用な微生物原料のデータと、昨年発表した際に、その高い浸透性から反響の大きかった高度製剤化技術カチオン化ベシクルの新たなデータを報告しました。

保湿 & バリア機能向上原料、高浸透性を叶える製剤化技術

2019IFSCC (イタリア・ミラノ)での発表の様子



2019年、IFSCC学術大会の初挑戦にて、発表の場を獲得。そして、2020年は提出した、2テーマともが採択されました。

2020IFSCC (日本・横浜)は初のオンライン開催



公式ホームページでは、発表内容に関する研究成果を分かりやすく紹介しています。

PP-スクモ

最少な微生物から生まれたオリジナル成分

1996 2007 2009 2019

放線菌由来新原料

PP-SKMO

カチオン化ベシクル

世界初の圧倒的な浸透力で自らめく肌へ

カチオン化ベシクル

CV-book

2件とも国際特許を出願しており、日本ではすでに特許取得済、世界での権利保護のため各国の権利化を進めています。

細胞に働きかけ、皮膚のバリア機能を向上させる事で高い保湿効果を実現する新規原料と、有用な化粧品原料を皮膚内部へと届けるDDS(薬剤送達システム)のような画期的な技術は、全世界の研究者へ発信され、大きな反響となりました。